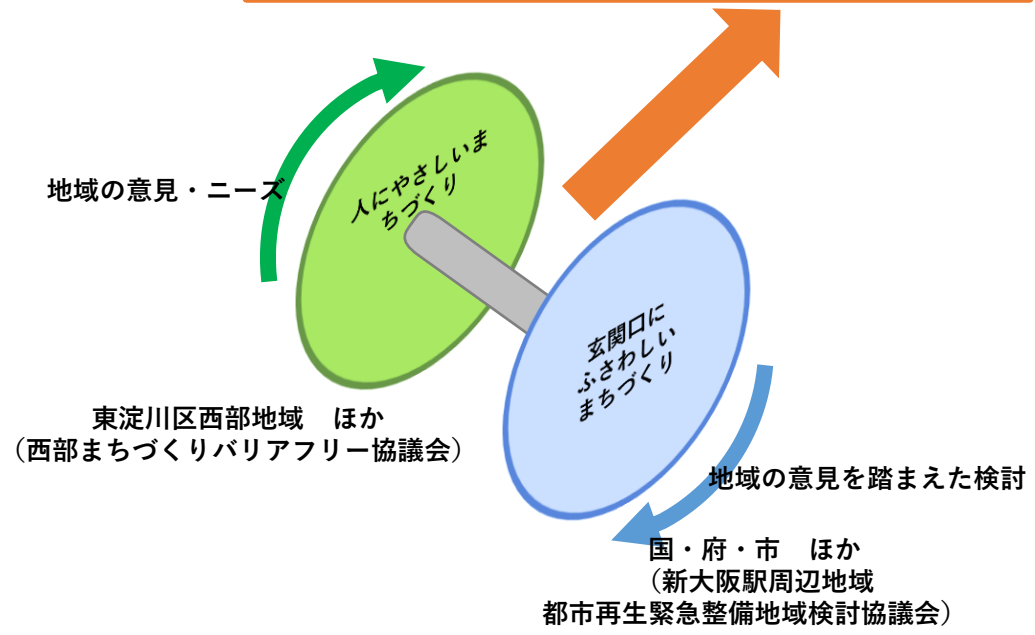


新大阪駅東口まちづくりビジョンの検討「概要版」

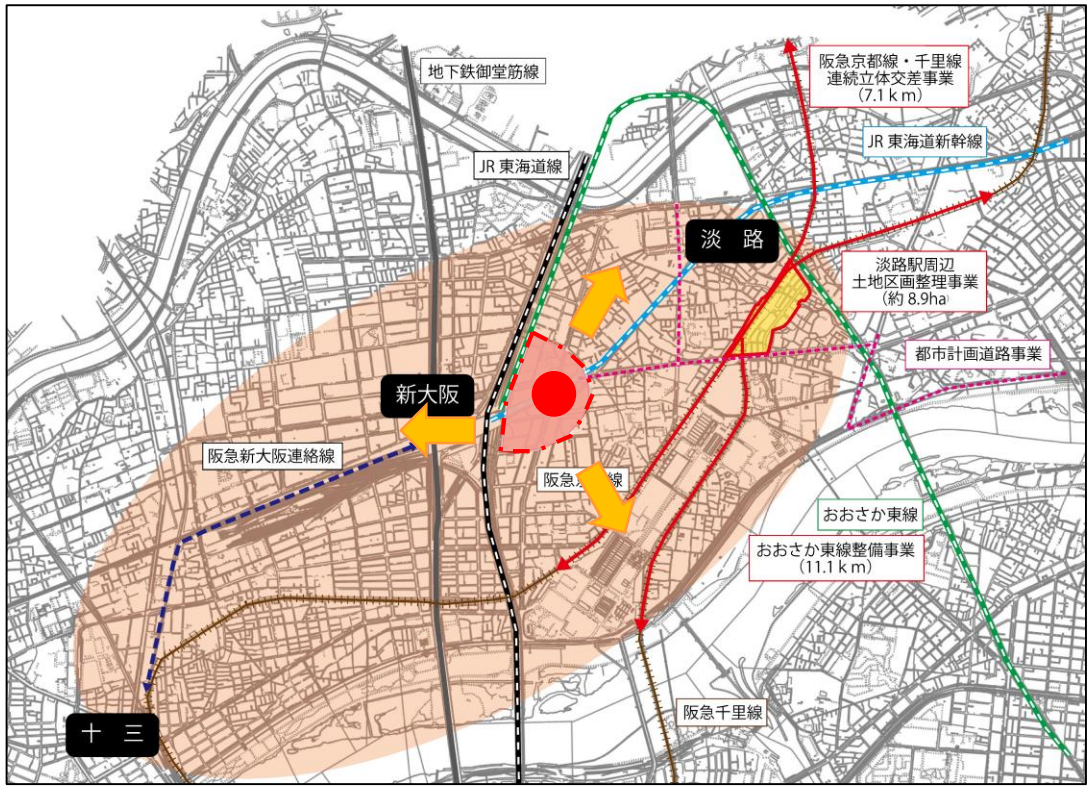
基本的な考え方

「新大阪東口のまちづくりを支える両輪」
○「玄関口にふさわしいまちづくり」と「人にやさしいまちづくり」の
2つ視点があることでまちづくりが進んでいく。

新大阪駅東口のまちづくりの目標に向けて



まちづくりの検討範囲と拠点エリア



まちづくりの方向性のまとめ

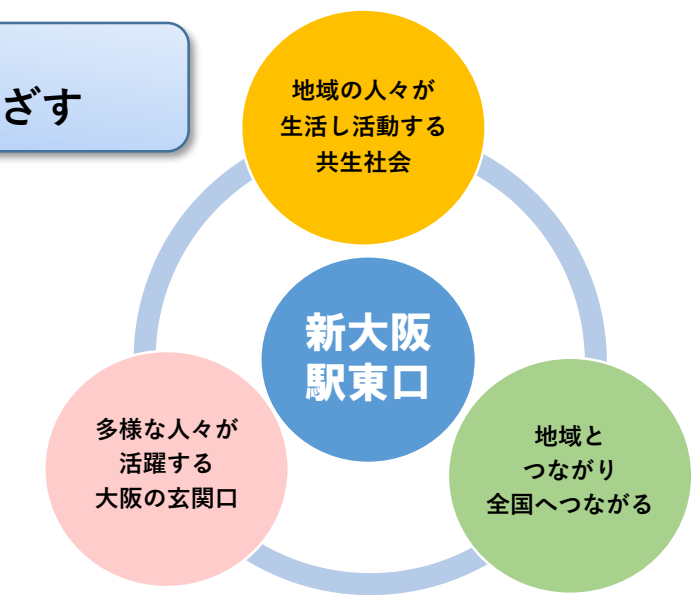
まちづくりの目標 地域との共生、にぎわいと交流をめざす

地域の人々が生活し活動する共生社会

- 地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり
- 人々が行き交い、各地から集まり、地域の人々と豊かにつながりあえる交流の場
- 歴史と調和し、世代間の交流が活発となる、生活に根差した地域の交流のまち

多様な人々が活躍する大阪の玄関口

- 玄関口にふさわしく、人が集まるための環境の強化を図り、地域の活性化を促進
- 新大阪駅に近接する地域特性を活かし、クリエイティブに多様な人々が活躍する持続可能なまち
- 職住近接のまちと技術革新が描く、新たな働き方と日常生活のかたち
- 新大阪駅を利用する人々が立ち寄り、東淀川区・淀川区からアクセスしやすい交流拠点
- 魅力的な空間や安心感のある歩きたくなる歩行者空間のネットワーク



地域とつながり全国へつながる

- 周辺地域とつながる歩行者ネットワークにより、当地区を経由した周辺地域とのアクセス性を向上させ、利便性向上と交流を促す
- 東口の南北に位置する交通広場の再編により、周辺地域からのアクセスや乗り換え利便性を向上させるとともに、新大阪駅周辺（十三～淡路）の拠点として地域相互の連携を促す
- 新大阪駅との動線を確保することで、全国につながる地域の特性を強化する

拠点エリアによる波及効果イメージ

開発効果（影響）

開発効果（影響）

連携

連携

地域住民との交流拡大

地域内での多様な都市活動

拠点エリア

先導的なまちづくり検討範囲

周辺地域

先導的なまちづくり検討範囲を超えて周辺地域へ開発効果が波及

開発ポテンシャルの伝播

- ・ 西部地域まちづくり構想の実現に向け、新大阪駅東口の未利用地等の活用により拠点エリア開発を促進し、先導的なまちづくり検討範囲、さらには周辺地域へ開発効果を波及させる
- ・ 地域全体のポテンシャルを向上させ、地域住民の生活基盤を底上げし、地域の持続可能なまちづくりの促進につなげる

例えば・・・

- ・ 拠点エリアにオフィスを誘導し、さらに中小企業や起業家の入居などが進めば、地域に居住しながら地域で働く人々の増加を促進し、交流も生まれる
- ・ 地域で生活する人々の増加が地域を活性化させ、ファミリー層を含む多様な世代の多様な人々が活躍し生活する地域となる
- ・ 低層階を中心に交流の場や生活関連施設が配置されることで、地域住民の利便性向上や交流促進につながる
- ・ 地域に根差した住民や企業の増加により、地域活動の活性化と世代間交流が促進される

など

- ・ 多様な人々が生活し活動する交流のまちを具体化するため、拠点エリアの開発によりその効果を波及的に広げ、地域との共生やにぎわいと交流のまちづくりを促進する